

伊勢湾台風救助活動の感謝状・表彰状

1年前のこのコーナーで、1959（昭和34）年9月の伊勢湾台風における、名大生による被災者救助活動を紹介しましたが、名大医学部附属病院の活動にも特筆すべきものがありました。

医学部附属病院では、台風襲来翌々日の9月28日に、風水害罹災者救護班を編成しました。救護班は、医師2名、看護師2名、医学部附属看護学校の生徒2名、事務員1名の7名で編成し、これを7班組織しました。救護班は愛知県や名古屋市等の要請に応じて出動するものとされ、さっそく9月29日から活動を開始しました。

そのほかにも、医学部附属病院の医療スタッフは様々な救助活動に関わっており、記録が残されている事例の1つとして、「NHK 診療班」があります。これは、NHK・厚生省・愛知県・名古屋市が主催したもので、名大は後援者としてこれに協力し、同診療班に医師と看護師を派遣しました。

このたび、医学部から、こうした附属病院の救助活動に対する3枚の感謝状・表彰状が見つかりました。

2枚の感謝状（写真1、2）は、小林橋川^{こばやしきつせん}名古屋市長および桑原幹根^{くわはらみきね}愛知県知事から医学部附属病院に宛てたもので、1959年12月に贈られています。いずれも、伊勢湾台風の災害を「未曾有」のものとして表現しているのが印象的です。

表彰状（写真3）は、岸^{きし}信介^{のぶすけ}首相から、やや遅く1960年3月に贈呈されたものです。宛て名は、医学部附属病院救護班、理学部学生自治会、教養部災害救助班の3つになっています。「復旧救助に尽力し抜群の功労があった」と書かれています。

『名古屋大学五十年史』には、教養部と医学部の学生による伊勢湾台風救助活動への言及はありますが、理学部学生自治会については触れていません。同自治会の救助活動の重要性が注目されるところです。



1



2



3

- 1 小林橋川名古屋市長の感謝状（1959年12月10日付）。署名だけでなく本文も自筆と思われる、旧字体を含んだ、やや崩した字になっている。「…名古屋市は未曾有の災害を蒙り数日間水没地帯にあって困苦艱難を嘗めた罹災者達に対し速早く温かい救援の手を差し伸べられ今や漸く復興に立ち上ることを得ました…」とある。
- 2 桑原幹根愛知県知事の感謝状（1959年12月23日付）。写真1の感謝状とともに、すでに「伊勢湾台風」という名称が使われている（1959年9月30日に気象庁が呼称を決定）。
- 3 岸 信介首相の表彰状（1960年3月8日付）。

BRIEF HISTORY OF NAGOYA UNIVERSITY

名古屋大学基金のご案内

名古屋大学が優れた人材輩出や世界的な研究成果により、今後も日本や地域に貢献し続けるには、安定した独自財源が必要です。「名古屋大学基金」はその基盤であり、皆様からのご寄附を、さまざまな事業に活用させていただきます。何卒ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



新型コロナウイルス感染症対策緊急学生支援基金ご支援のお願い

現在、新型コロナウイルス感染症が世界中で蔓延しており、健康医療は言うに及ばず、私たちの社会活動に広範かつ深刻な影響を及ぼしております。名古屋大学の学生への影響も甚大であり、学ぶ意欲をもちながらも困窮している学生の支援や、遠隔授業等の学習環境整備により、質の高い教育活動を維持するため、ご支援をお願いいたします。

Webでもご寄附を受け付けております。



<https://fundexapp.jp/nagoya-u/entry.php?purposeCode=110000>

ご寄附のお申込み、お問い合わせはDevelopment Office（DO室）あて（電話052-789-4993、Eメールkikin@adm.nagoya-u.ac.jp）をお願いいたします。

詳しくはホームページをご覧ください。

アクセスはこちらから

名古屋大学基金

<https://kikin.nagoya-u.ac.jp/>

